

横須賀市 障害とくらしの支援協議会

第1回全体会 次第

日 時：令和7年11月6日（木）
10時00分から12時00分（予定）
会 場：ヴェルクよこすか 6階ホール

1 開 会

2 議 題

（1）障害とくらしの支援協議会 活動報告

（2）地域課題に係る意見交換

3 閉 会

◆配付資料

【資料1】協議会編成について

【資料2－1】こども支援部会 報告書

【資料2－2】地域課題整理部会 報告書

【資料3－1】通所送迎に係る課題整理のためのワーキンググループ 報告書

【資料3－2】移動支援事業の見直しワーキンググループ 報告書

【資料3－3】障害福祉計画等の策定に係る障害者等の実態把握のためのアンケート内容の検討
ワーキンググループ 報告書

【資料3－4】行動に課題のある方の支援に係るワーキンググループ 報告書

【参考資料】障害とくらしの支援協議会 組織図

名称	目的	主な内容	構成員
全体会	関係機関等と地域課題の共有及び相互の連携強化等を図る	地域課題の共有、協議 委員間での情報共有	関係機関等
実務者運営会議	協議会の円滑な運営を図る	地域課題に対する活動方針の決定 組織設置及び調整 市町村障害福祉計画及び障害児福祉計画の策定過程での助言等、計画の進捗状況の把握並びに必要に応じた提言 市の協議依頼事項に関する協議、報告及び提言	市内社会福祉法人 障害者相談サポートセンター等
調整会議		実務者運営会議で効率的な協議を行うための調整 実務者運営会議で決定した事項について、必要に応じて細部の検討及び決定	実務者運営会議座長 情報集約を行う部会の部会長 事務局等
こども支援部会	情報集約による地域課題の抽出	主に障害児に係る地域課題の共有及び検討	関係機関等
地域課題整理部会		事例を素材にしたグループスーパービジョン 個別事例からの地域課題抽出及び検討	市内相談支援事業所等
通所送迎に係る課題整理のためのワーキンググループ	地域課題の解決にむけた協議	生活介護事業所、障害児通所支援事業所を対象にしたアンケート調査 課題分析及び提言	生活介護事業所 障害児通所事業所等
行動に課題のある方の支援に係るワーキンググループ		支援者を対象にした研修会の企画 人材育成に関する協議及び提言	障害者支援施設 生活介護事業所 相談支援事業所等
移動支援事業の見直しワーキンググループ		障害福祉課が示す、障害者の移動に係る施策への提言	障害当事者 障害者の家族 生活介護事業所 障害児通所支援事業所 相談支援事業所等
障害福祉計画等の策定に係る障害者等の実態把握のためのアンケート内容の検討ワーキンググループ		障害福祉課が行う障害者等の実態把握のためのアンケート内容や手法について提言	障害当事者 障害者の家族 サービス提供事業所職員等

横須賀市 障害とくらしの支援協議会
こども支援部会 報告書

資料 2 - 1

活動目的	主に障害児に係る地域課題の共有及び検討
開催日時	第 1 回 令和 7 年 6 月 24 日 第 2 回 令和 7 年 9 月 22 日
構成員	障害児通所支援事業所 伊藤 氏 ※ 障害児通所支援事業所 松田 氏 ※ 障害児通所支援事業所 石川 氏 障害児通所支援事業所 小谷田 氏 障害児相談支援事業所 山邊 氏 ※ 学識経験者 伊藤 氏 ※ 当事者家族 五本木 氏 ※ 当事者家族 市川 氏 ※ 市立小学校校長会 高橋 氏 県立武山支援学校 澤村 氏 県立岩戸支援学校 菊池 氏 市立養護学校 阿部 氏 筑波大附属久里浜特別支援学校 石川 氏 支援教育課 有馬 氏 健康福祉センター 岡安 氏 障害福祉課 岩崎 氏 (※は、コアメンバー会議参加者)
共有された現状や地域課題	・ 家庭、教育、福祉の連携促進（トライアングルプロジェクト） ・ 子どもに発達の遅れがあることがわかったばかりの保護者のピアの場がない
部会としての活動・提案	サポートブックの活用促進にむけ、改訂・配布方法の検討を行った。改訂にあたっては、トライアングルプロジェクトを促進する目的で、教育機関が使用しているイエローファイルと障害児通所支援事業所が行う 5 領域のアセスメント項目との互換性を高める内容に変更した。また、保護者の作成促進を図るため、サポートブックの趣旨を理解しやすい内容のチラシを作成した。令和 8 年度から、障害福祉課で改訂版書式・チラシの配布を予定している。 また、トライアングルプロジェクト促進のため、部会から支援教育課へ依頼を行い、特別支援学級新担任者研修講座プログラムの中に、障害児通所支援事業所の見学を組み入れていただいた。放課後等デイサービス事業所連絡会を通じ、市内 11 事業所にご協力いただき、夏休み期間に教諭が障害児通所支援事業所の見学を行っている。 子どもに発達の遅れがあることがわかったばかりの保護者のピアの場の不足という課題の解消に向けて、検討を行った。ピアカウンセラー養成等については、ピアカウンセラーとなる保護者の要件等のハードルが高いという意見が出ている。ピアカ

	ウンセリングにつながるピアの力を育てるという視点で、保護者の交流会を開催することの提案を行った。 次期障害福祉計画策定を見据え、部会内で現在の取り組み状況と今後の方向性に関する意見交換を行った。
生み出された効果や変化	障害児通所支援事業所の見学を行った教諭からは、以下の感想をいただいている。（一部抜粋） ・公共交通機関を利用した自力通所等、自立に向けた支援を行っていると感じた。学校でも、できるだけ児童自身が考え、行動できるように働きかける授業を考えていきたい。 ・障害児通所支援事業所で大切にしていることと、学校の指導での軸が一致していると感じた。家庭、学校、福祉での大人の関わり方が一貫していることは、子どもにとっても重要なことと思う。 ・学校だけでは見ることができない児童の一面を知った。障害児通所支援事業所では、お兄さんお姉さんとしてお手伝いをしている児童もあり、環境が変われば、子どもたちも変わるということを痛感した。

横須賀市 障害とくらしの支援協議会
地域課題整理部会 報告書

資料 2 - 2

活動目的	相談支援専門員の質の向上、ネットワーク強化 地域課題の抽出及び検討
開催日時	グループスーパービジョン（事例を素材にした人材育成）：毎月最終金曜日 地域課題整理部会：毎月第3水曜日
構成員	グループスーパービジョン：市内の相談支援専門員 地域課題整理部会：基幹相談支援センター、主任相談支援専門員等
共有された現状や地域課題	・ 行動に課題のある人に対して、障害特性に配慮した支援の提供に難しさがある。 ・ 施設入所者が施設外の社会資源とつながりにくい ・ 高齢障害者の介護保険併用、移行にあたって、関係機関や支援者間の調整や連携に難しさがある。 ・ 支援学校高等部卒業生が、教育分野から福祉サービスへと移行するにあたって、必要な情報や支援の引継ぎがスムーズに進められていない。 ・ 重度障害者の受け入れ体制が整っていない。特に、市外と比較して、市内には日中支援型グループホームが少ない。 ・ 市内グループホームに、他市援護ケースが流入しており、相談支援の依頼がある。
部会としての活動・提案	今年度、グループスーパービジョンの場においては、質の向上を目的に、地域課題抽出を行わず、グループスーパービジョンに注力して取り組んでいる。地域課題整理部会では、グループスーパービジョンの事例の個別課題を参考に、地域課題の抽出・整理を行っている。 障害特性に配慮した支援の提供に係る地域課題については、調整会議に諮り、ワーキンググループが設置された。部会としては、アセスメントを共有する会議運営の重要性、サービス管理責任者の人材育成を地域で行っていくことができないかという意見が出ている。 「施設入所者が施設外の社会資源とつながりにくい」という地域課題については、調整会議に諮ったが、部会での再検討となっている。入所施設職員が外部に出ていくことのハードルは高いという意見が出たため、部会として、まずは市内入所施設にご協力いただき、基幹相談支援センターや主任相談支援専門員が、入所施設の中に入っていく試みを実施したい。個別支援計画とサービス等利用計画の連動性の視点を意識しながら、事例の検討を通じて、本人主体で考える企画を行いたい。現在、調整中。 高齢福祉分野との連携に係る地域課題については、主任介護支援専門員との研修会企画を行うことを検討中。主任介護支援専門員と顔合わせ等行う中で、高齢福祉分野としても、高齢障害者のケアマネジメントに難しさを感じているという共通認識があることがわかった。まずは、主任介護支援専門員を対象に、障害福祉分野の相談支援体制や制度的な概要をお伝えした上で、それぞれの分野での視点の違い等を共

	有したいと考えている。現在、調整中。
生み出された 効果や変化	—

地域課題	移動手段の確保が困難なため、通所や余暇等の外出が制限されている。
活動目的	安定した通所手段の確保のために、通所事業所による送迎の促進を行う。
活動目標	通所事業所による送迎の実態調査を行い、事業所が抱えている課題整理を行う。
活動期間	令和 7 年 1 月～令和 7 年 5 月
開催回数	5 回
構成員	生活介護事業所 海原 ^{かいいばら} 氏 生活介護事業所 近藤 氏 生活介護事業所 森下 氏 障害児通所支援事業所 小田 ^{おだ} 氏
活動内容	市内所在の生活介護事業所、放課後等デイサービス事業所を対象にアンケート調査を実施。 調査期間：令和 7 年 2 月 20 日（木）～令和 7 年 3 月 19 日（木） 回 答 率：生活介護事業所 93% 放課後等デイサービス事業所 88%
生み出された効果や変化	アンケート調査を通じて、通所事業所における送迎体制の現状と主要課題が明らかになった。以下の現状や課題について、障害福祉課へ意見提出を行った。 多くの事業所が送迎を実施しているが、対象者割合や利用方法に大きな差があり、特に重度障害者や身体障害者の利用割合が高い事業所では送迎ニーズも高い状況にある。一方で、送迎加算の要件を満たせない、報酬水準が低い、運転手不足や車両確保・維持管理の負担が大きいなど、現場に共通する課題が見えてきた。 放課後等デイサービスでも、送迎実施の有無による利用形態の差や、通所自立支援に関する人員や期間、実費負担に課題が見られ、90 日間では不十分との声が挙げられている。 今後は、事業所送迎を通所支援の基本と位置づけ、報酬や補助の拡充、リフト車両や人件費などコスト負担軽減のための支援策、外部事業者や複数事業所の連携による効率的な送迎体制の構築、自力通所への支援期間延長などの施策を検討いただきたい。
協議会内で進められそうな取り組み案	・送迎時の車内支援に役立つ実践例等の情報交換 ・複数の事業所による共同送迎のイメージづくり

横須賀市 障害とくらしの支援協議会
移動支援事業の見直しワーキンググループ 報告書

資料 3 - 2

地域課題	移動手段の確保が困難なため、通所や余暇等の外出が制限されている。
活動目的	障害当事者や関係者等の納得を得ることができる、新たな移動支援事業を限られた予算の中で立案していくため。
活動目標	令和 8 年度予算を見据え、障害福祉課が示す「移動支援事業の見直しにあたっての基本的な考え方」に対する提言を行う。
活動期間	令和 7 年 4 月～令和 7 年 9 月
開催回数	5 回
構成員	実務者運営会議委員 森下 氏 実務者運営会議委員 松田 氏 障害当事者（身体） 浅津 氏 当事者家族（成人・知的） 清水 氏 当事者家族（障害児） 五本木 氏 当事者家族（医療的ケア児等） 等々力 氏 相談支援事業所 斎藤 氏 生活介護事業所 小谷 氏 放課後等デイサービス事業所 小林 氏 移動支援事業所（オブザーバー）山崎 氏、岩崎 氏、武藤 氏
活動内容	障害福祉課の依頼で、協議会内にワーキンググループ設置。障害福祉課が示す方針に対して、障害当事者、家族や支援現場の視点で感じたこと、考えについて協議を行った。
生み出された効果や変化	以下の内容を提言。 ・移動支援事業を利用した通所から、通所事業所による送迎へシフトしていくための施策による促進 ・基本的な報酬単価の見直し ・車両を利用した支援（乗降介助）の報酬単価創設 ・自力通所訓練を目的とした報酬単価創設 ・重度障害者、医療的ケアのある方を対象にした新たな加算創設と、研修受講補助 ・一定の条件を満たす場合には、行動援護・同行援護・重度訪問介護への切り替え ・移動支援事業の自己負担金額に係る考え方について ・市民や事業所向けにガイドラインを示してほしい。 ・支給決定の場面等では、丁寧に状況の聞き取りをしてほしい。
協議会内で進められそうな取り組み案	・複数の事業所による共同送迎のイメージづくり

横須賀市 障害とくらしの支援協議会
 障害福祉計画等の策定に係る障害者等の実態把握のための
 アンケート内容の検討ワーキンググループ 報告書

資料 3 - 3

地域課題	障害者等の実態把握、事情を勘案した障害福祉計画の策定
活動目的	アンケート内容や手法を見直し、アンケート回収率の向上や時勢に合った調査結果を得られるようにする。
活動目標	幅広い立場の意見を踏まえたアンケート内容や、手法の見直しを行い、障害福祉課へ提言する。
活動期間	令和 7 年 4 月～令和 7 年 9 月
開催回数	5 回
構成員	実務者運営会議委員 寺澤 氏 障害当事者（身体障害） 小松 氏 支援者（知的障害） 成岡 氏 支援者（精神障害） 佐野 氏 当事者家族（障害児） 神代 氏 相談支援事業所 金子 氏
活動内容	障害福祉課の依頼で、協議会内にワーキンググループ設置。令和 7 年 11 月頃に障害福祉課が実施するアンケート調査について、障害当事者、家族や支援者の視点で、内容や実施にあたっての合理的配慮等について協議を行った。
生み出された効果や変化	・障害当事者、家族や支援者の視点で、回答項目を精査し、アンケート回答率の向上のための取り組みを行うことができた。 ・クロス集計等の分析を念頭に、アンケートの項目出しを実施。 ・有効回答数とアンケート回答率から逆算し、対象者数を設定。 ・回答の負担感を考慮し、必須回答項目と任意回答項目の 2 部構成とする。 ・障害別に当事者団体等に別途ヒアリングを行うことを提案。
協議会内で進められそうな取り組み案	・アンケート実施後の分析結果については、共有、フィードバックの場が必要。

横須賀市 障害とくらしの支援協議会

行動に課題のある方の支援に係るワーキンググループ 報告書

資料 3 - 4

地域課題	行動に課題のある方に対して、障害特性に合った福祉サービスが提供されていない。
活動目的	障害特性に合わせた支援が継続され、安定した生活を送ることができるように、支援の質の向上を図る。
活動目標	主に通所事業所職員を対象に、本人主体の視点で、本人の生活（1日トータル）をアセスメントし、チーム支援・伴走支援を行う意識をつくる研修企画を行う。
活動期間	令和7年1月～
開催回数	
構成員	障害者支援施設 柳澤 氏 生活介護事業所 海江田 氏 相談支援事業所 猪又 氏 圏域発達障害者地域支援マネージャー 斗舩 氏 基幹相談支援センター 岸川 氏
活動内容	以下の内容で、全2回の研修会を企画、開催。 研修タイトル：はじまりは、「なんで？」 ～行動には理由がある。気づきと変化への第一歩～ 対象者：障害者支援に携わる職員（特に生活介護事業所職員の方） 内 容：特性理解に係る講義とグループワーク （1） 第1回 日時：令和7年6月3日（火）14:00～17:00 講師：社会福祉法人 育桜福祉会 佐野 氏 （2） 第2回 日時：令和7年9月29日（月）14:00～17:00 講師：社会福祉法人 育桜福祉会 佐野 氏 社会福祉法人 湘南の風 斗舩 氏
生み出された効果や変化	第1回は60名、第2回は41名が参加。日中の開催にも関わらず、多くの生活介護事業所から参加いただき、支援現場の課題意識が強いことが伺えた。 アンケートからは、研修満足度は高く、今後も研修等の研鑽の場や、事業所間のネットワークを求める声が多く見受けられた。
協議会内で進められそうな取り組み案	検討中

